

ロシア、日本を抜き PPP ベースで世界第 4 位の経済大国に

bne IntelliNews 2024 年 6 月 4 日、

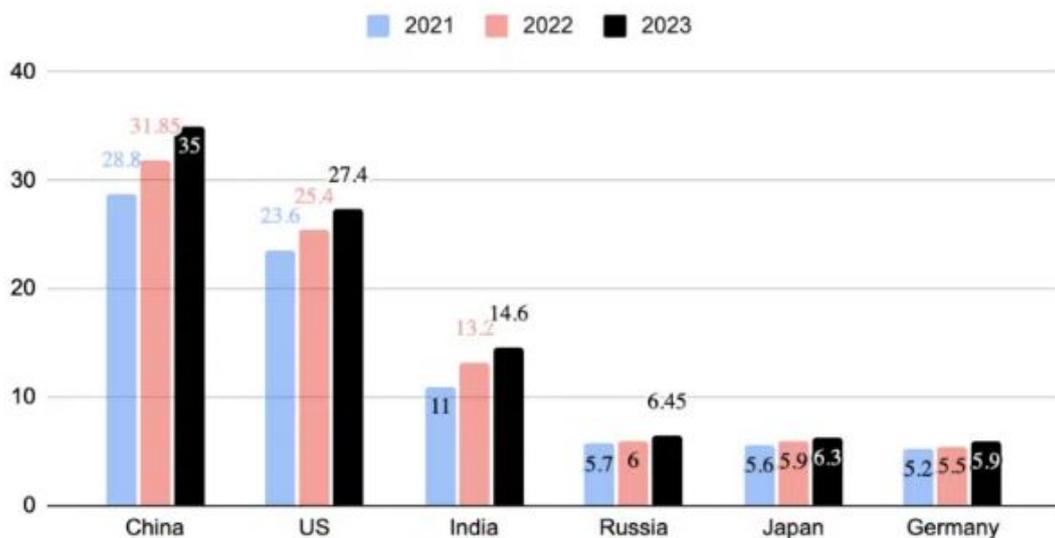
[Russia overtakes Japan to become the fourth largest economy in the world in PPP terms | MR Online](#)

6 月初めに発表された世界銀行の修正データによると、ロシア経済は PPP（購買力平価）ベースで日本を抜いて世界第 4 位になった。

bne IntelliNews が昨年 8 月に報じたように、ロシアはすでにドイツを抜き、調整後で第 5 位の経済大国となっていた。最近、複数のショックに見舞われ、安価なロシア産ガスから遮断されたドイツは、現在停滞しており、世界銀行のランキングでは 6 位に転落している。

Global leading economies in PPP terms \$ trillion

source: World Bank



PPP による GDP 測定は、エコノミストの有名なビッグマック指数（モスクワのハンバーガーはニューヨークの同じハンバーガーの約半額）のように、現地価格と名目価格の差を考慮するため、多くのエコノミストに好まれている。

世界銀行はデータを修正した結果、ロシアのランキングを改善し、ロシアは 2021 年に日本を追い抜き、それ以来 4 位を維持していると発表した。以前の計算は 2017 年のデータに基づいていたが、現在は 2021 年の数字に更新されている。

以前、ロシアのプーチン大統領は、世界平均を上回る経済成長を実現するという目標を掲げていた。ウクライナ戦争が始まる前、ロシアの経済成長は世界平均から大きく遅れ、停滞に近かった。しかし、2022 年のウクライナ侵攻後、ロシア経済は軍事ケインズ主義の後押しを受け、現在、世界で最も急速に成長している主要経済国となっている。

そしてロシアは予定よりも早く日本を追い抜いた。プーチンは今年初め、PPP（購買力平価）で世界第 4 位の経済大国になるという目標を政府に明示し、2025 年 3 月 31 日までにこの目標を達成するための方策を準備するよう内閣に指示していた。

西側諸国との関係を断ち切ることで、プーチンは「グローバルサウスの世紀」に大きな賭けをした。現在、中国とインドは購買力平価（PPP）ベースで世界ランキングの 1 位と 3 位につけているが、今後 30～40 年の間に名目ベースでもトップになると予想されている。このランキングの下位に位置する経済成長著しい国も、そのほとんどがグローバルサウスの国々である。

bne IntelliNews が大々的に報じているように、ロシアは経済モデルを変え、数十年にわたる緊縮財政の後に大規模な投資を開始し、新たなプーチノミクスの成長に拍車をかけている。軍事産業複合体への投資と同時に、プーチンは民間経済にも投資し、平均的なロシア人の生活の質を向上させるために、国家プロジェクト 2.1 プログラムを立ち上げた。ロシアの最貧困地域が最大の勝

者となり、bne IntelliNews が最近報じたように、インフレ、失業、貧困の合計である 絶望指数は今年、過去最低レベルまで低下した。

こうした変化の結果、ロシアの潜在成長率は戦前の 1～1.5%から現在は約 3.5%に上昇したとエコノミストは推定している。昨年のロシアの経済成長率は 3.6%で、アナリストの意表を突いた。今年、世界銀行はすでに成長率予測を 1.1%から 3.2%へとほぼ 3 倍に引き上げている。ロシア経済省も同様に強気だ。

世界銀行の PPP 調整後の経済規模でさえ、過小評価かもしれない。世界銀行はまた、ロシア経済の 39%が影に隠れていると見積もっているが、影に隠れている経済は日本経済の 10%に過ぎない。ロシアの PPP 調整後の経済規模 6.4 兆ドルに、さらに 2.5 兆ドルが追加されることになる。

(翻訳チェック 田中靖宏)